

2017 夏の Summer 推薦図書リスト

S S H S 図書館発行



『英語のバカヤロー！』
(古屋裕子 // 編)
アース・スター・エンターテインメント

各分野のプロフェッショナル達も英語の壁に立
いた。でも、言葉はひとつのツール。専門をき
わめれば、つたない英語にも耳を傾けてくれ
る・・・
12人の体験こそ最高のアドバイス!!



『国境のない生き方』
(ヤマザキマリ // 著)
小学館新書

テルマエロマエのヤマザキマリを作っ
たのは古今東西の本と人との出会い。
日本を離れて手にとった本は・・・?!



『楽園のキャンバス』
(原田マハ // 著)
新潮社

MoMAにあるルソーの「夢」、それに酷似した
絵の真贋は・・・。キュレーター原田マハの知
識や感性がふんだんに生かされたフィクショ
ン。読書とともにルソー、ピカソがぐっと身近
に。美術館に行きたくなるかも。



『ツバキ文具店』
(小川糸 // 著)
幻冬舎

1968年、この島に本人に成り代わって手紙等の代
筆を行う職業。鳩子は絶縁していた祖母の死を
きっかけに祖母の文具店を継ぐことに。代書の
依頼者の人生に関わりながら鳩子が伝えたい
大切な思いとは・・・。背筋がしゃんとする作品。



『ぼくは君たちを憎まない
ことにした』(アントワー
ヌ・レリス // 著) ポブ

2015 パリ同時多発テロ。著者(被害者の夫)
がテロリストにあてた手紙は全世界で話題に。こ
の本はその後2週間、残された17ヶ月の息子
との日々。静かで強いメッセージを発したジャー
ナリストとしての著者も小さな息子の爪を切る
シーンでは・・・。小さな心臓をふるわせているの
はどちらなのか。悲しみもかすかな希望も胸にせ
まる。



『父さんの手紙はぜんぶお
ぼえた』(タミ・シェム=トヴ
// 著) 岩波書店

手にとって下さい。表紙のキュートな手紙はカ
ラフルでユーモラスで・・・。足ながおじさんへ
の手紙のよう。これがナチスから身を守るため
名前も出身も隠し、ひとり他人の家に住む10
歳の娘に宛てた父の手紙とは。少女は心のより
どころであるこの手紙すら家族危険回避のため
手元に置くことはできなかった。戦時下、奇跡
的に残された手紙から知る戦争の姿。



『きみの友だち』
(重松清 // 著)

新潮社

10歳の誕生日の数日後に交通事故にあった「きみ」、最初の話は、きみだ。事故で心を閉ざした少女とそのただ一人の友だち、弟、弟の友だち、その友だち…。次々と視点を変えて、いくつもの切ない友情が紡がれます。長い時をかけて「友だち」の本当の意味を探る連作の長編です。



『ローマ人の物語』
(塩野七生 // 著)

新潮社

世界歴史上最大の帝国、ローマ全史を全15巻で描く大作。王や貴族、庶民にまで焦点を当て、まるで舞台のようにローマ建国から滅亡までを語ります。歴史から政治システム、ローマ人の考え方や暮らし方までも身近に理解できる、歴史物語の傑作です。長い休みに是非どうぞ！



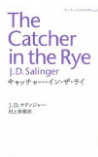
『沈黙の春』
(レイチェル・カーソン // 著)

新潮社

1962年に、アメリカで発行された本著は、環境汚染の重大性について世界に初めて警告しました。

「鳥たちはどこへ行ってしまったのか。春がきたが、沈黙の春だった。敵におそわれたわけでもない。すべては人間がみずからまねいた禍いだったのだ」

半世紀を超えても、今な現代社会に警鐘をならす古典的名著です。



『キャッチャー・イン・ザ・ライ』
J.D.サリンジャー // 著 村上春樹 // 訳

白水社

主人公ホールデン・コールフィールドはペンシルバニアの高校に通う16歳。クリスマス直前に退学になり、寮を飛び出して故郷のニューヨークに戻りますが、そこに彼の居場所はありません。大人は欺瞞に満ちていて、ホールデンは社会に噛みついてばかり…。永遠の青春物語として、世界中で読み継がれている名作です。村上春樹訳



『屍鬼』
(小野不由美 // 著)

新潮文庫

夏の夜長にぜひ。背筋も凍るヒューマンホラー。ある出来事をきっかけに一つの村が丸ごと消滅の危機を迎える。次々と人が死んでいくのは・・・人間のエゴがむき出しになる。あなたならどうするだろうか。そっとしてみて。



『さよならを待つふたりのために』
(ジョン・グリーン // 著)

岩波書店

杉総ビブリアバトルで推薦された一冊。甲状腺ガンが肺に転移し、酸素ボンベなしには生きられない少女ヘイゼルと片足を切断したオーガスタスの壮烈な愛を描く。

NO
IMAGE

『遠野物語』
(柳田国男 // 著)

岩手県遠野市に伝わる民話を、民俗学者柳田国男がまとめた説話集。雪女、河童、天狗、山姥、座敷童…どこか懐かしくて不思議な物語たち。神々への畏怖、祖霊への思いなど、日本人の死生観や自然観が凝縮された、日本の民俗学の原点ともいえる古典名著です。



『小説 言の葉の庭』
(新海誠 // 著)

KADOKAWA

雨の季節の新宿御苑の東屋で出逢った靴職人を目指す男子高校生孝雄と謎の女性雪野の物語。

学校で習った万葉集がきっと身近になります。読後は新宿御苑に行ってみたくもなるかも・・・。



『今からちょっと仕事やめてくる』
 (北川恵海 // 著) 株式会社
 KADOKAWA アスキー・メディア
 アワークス
 【メディアアワークス文庫】

杉総ビブリアバトルで推薦された一冊。
 ブラック企業にこきつかわれて心身共に衰弱した隆は、無意識に線路に飛び込もうとしたところを「ヤマモト」と名乗る男に助けられた。スカッとできて、最後は泣けるすべての働く人たちに贈る人生応援ストーリー。



『怒り』
 (吉田修一 // 著)
 中央公論新社

杉総ビブリアバトルで推薦された一冊。
 それぞれの人間にそれぞれの生きざまがある。つらい過去、打ちのめされても人は人を思わなくては生きてゆけない。信じたいのだけれどそれができず人は苦しむ。運命が導く祈りにも似た怒りが深く重く心に残る。



『指輪物語』
 (トールキン // 著)
 評論社

かつて世界中でヒットした映画「ロード・オブ・ザ・リング」の原作ですが、実は「ファンタジーの源」「すべてのロールプレイングゲームのオリジナル」とまで言われていました。「ハリー・ポッター」の著者もその影響を受けたと言われています。冥府の魔王によってつくられた指輪をめぐる、壮大な戦いの物語。不滅のファンタジーの名作です。



『世界でもっとも貧しい大統領
 ホセ・ムヒカ の言葉』
 (佐藤美由紀 // 著) 双葉社

南米の小国ウルグアイ第40代大統領、ホセ・ムヒカは「世界で最も貧しい大統領」と呼ばれている。郊外の農家に夫婦2人で住み友人からもらった中古車で執務に通う。彼が2012年にリオデジャネイロの国際会議で行ったスピーチは「もっとも衝撃的なスピーチ」と言われ大国の首脳達を感動させた。豊かな先進国が本当に豊かなのか本当の幸福とは何なのかを世界に問う本。



『窠変 源氏物語』
 (橋本治 // 著)
 中央公論社

日本人なら必ず知っておきたい『源氏物語』。けれども古典で苦労している人も多いのではないのでしょうか？その「源氏物語」を口語体を得意とする作家、橋本治が現代語訳しています。日本が世界に誇る、最古の長編小説にチャレンジしてみてください。
 「いつのことだったか、もう忘れてしまった。」からはじまる一巻の、最後の文章を紹介します。「女達は行った。生きるものは生きる道に、死んだものはいつかまた生まれ変わるその道に。消えていった秋のその行く道を私は知らない。そして私の行先だとて分かりはしないのだ。…私の十七の年は、やがてそのようにして終わって行く。」



『夢をかなえるゾウ』
 (水野敬也 // 著)
 飛鳥新社

宗ちゃん、サンダースくん、イチローくんと親しげに話すのはゾウの神様、ガネーシャ。そいつが大阪弁で主人公を成功へと導く過程は「ほんまかいな」と突っ込みたくなるが、読んでいるとこの人たちの偉人伝を読みたくなってしまふ。笑って読んで！



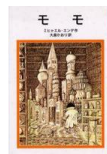
『ジニのパズル』
 (崔実 // 著)
 講談社

日本在住で朝鮮籍のジニ。祖国の動向に影響を受けて育ち、留学先のアメリカでも、自分のアイデンティティーに悩む。日本人では描けない、日本人では解らない感情を知らせてくれた中に、普遍的な青春のすがすがしさも込めた力強い作品



『私はマララ』
 (マララ・ユサフザイ // 著)
 学研パブリッシング

パキスタンで育ったマララは勉強が好きな少女でしたが彼女の村を支配したテロ組織タリバンは女性が勉強をすることを禁じていました。勉強も自由も奪われていく中でマララは10歳から世界に訴えはじめました。そして15歳でタリバンに頭を銃撃されたのです。一命をとりとめたマララは活動を辞めることなく、17歳で史上最年少のノーベル平和賞受賞者になりました。世界を変えようと、今も闘う少女の物語です。



『モモ』
 (ミヒヤエル・エンデ // 著)
 岩波書店

「時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子のふしぎな物語」という副題がついています。どこかイタリアの古い街に、モモという一人の女の子が迷いこみ、街はずれの廃墟に住み着いてしまいます。モモがいると、なぜかみんな幸せな気持ちになれました。ところが、ある時から街中に「灰色の男たち」が現れ…。各国で読み継がれる、ファンタジーの名作です。



『みかづき』
 (森絵都 // 著)
 集英社

戦後から現代まで塾を営む家族三代の物語。「教育は子どもをコントロールするためにあるんじゃない。・・・」印象的なシーンで主人公が語る言葉です。続きは物語後半で見つけてみてください。



『朝が来る』
 (辻村深月 // 著)
 文芸春秋

特別養子縁組をテーマにした物語。涙なしには読めなかったが、あえておすすめするのは・・・人生すべて体験できるわけではない。若いうちに物語の中でいろいろな立場を体験、様々な心に寄り添ってみるのもよいかとあげてみました。



『蜜蜂と遠雷』
 (恩田陸 // 著)
 幻冬舎

国際ピアノコンクールが舞台。コンクールの予選から本戦まで、その場に参加しているかのように読み進める本。すべての曲のリストがついているのもすごい。ピアノやバレエで聴いた好きな曲を思い出したり、「えっ、これどんなの?」と試聴してみたり。本から音楽の世界に旅する夏休みはいかが?



『サラバ!』
 (西加奈子 // 著)
 小学館

これは、全員が不器用でちょっとスケールのでっかいヘンサ加減の家族の物語。ほくが語る父と母の離婚。姉の波乱の人生。イランで過ごした子供のころ。日本での友人との交わり。そしてラストはまたイランへ。いろんなエッセンスがぎゅっと詰まった上下巻に全く飽きることはないと思うよ。

SSH S図書館「みんなの読書ノート」企画!!!

皆さんの夏期読書月間に読んだ本の感想を募集します。一口感想を出してくれたら1枚に1つ、スタンプラリー。

たくさん協力してくれた人には粗品進呈

.....の予定(^^♪)

図書館へGO!